



交通安全お願いします

秋の全国交通安全運動 交通安全テント村・9/24

秋の全国交通安全運動期間の一環として、市内各地で啓発活動が行われました。

交通安全協会高野分会では、高野保健福祉センターに交通安全テント村を開設し、会員や庄原警察署の警察官が、付近を通行するドライバーに安全運転の呼び掛けや交通安全啓発グッズの配布を行いました。

開会式では、交通安全運動の年間スローガンが確認されたほか、高野小や高野中から応募のあった交通安全標語が紹介され、優秀作品の応募者に感謝状が贈られました。

啓発グッズを受け取ったドライバーの一人は、「車の安全運転はもとより、自分が歩く時も車両などに気



▲開会式の様子（高野分会）

を付けるようにしたい」と話しました。

総領分会では、総領支所庁舎前で交通安全テント村を開設し、総領保育所から年長6人の園児が参加しました。

この日は天候も良く、子どもたちは多くのドライバーに交通安全のお願いをしていました。

また、テント村の前で止まった車の運転手は、子どもたちの元気な声掛けを聞いて、笑顔で啓発グッズを受け取っていました。

参加した子どもたちは、「運転手の人に安全運転のお願いができた。交通安全の啓発グッズを喜んで受け取ってもらってうれしかった。」と話しました。



▲交通安全を呼び掛ける子どもたち（総領分会）

西城の風景を描く

第75回近県写生大会・10/11

No.6

「第75回近県写生大会」ならびに「第28回妹尾賞写生大会」が開催され、西城町内の小中学生124人が参加しました。

この大会は、山紫水明の美しい西城町の自然美を描くことにより、子どもたちの情操の育成と美術教育の振興、生涯学習の推進により芸術文化の振興を図ることを目的としています。

審査員の六谷新さんは、子どもたちに「かっこいいと感じた風景をじっくり見てしっかり描こう」とアドバイスされました。子どもたちはそれぞれ一生懸命取り組み、画用紙いっぱいにさまざまな西城の風景が並びました。子どもたちは「西城の自然を画用紙に上手く描けた」と話しました。



▲思い思いの風景を描く子どもたち

自然の作り出す芸術作品

公開講座「葉脈標本づくり体験講座」・9/1

No.5

比和自然科学博物館で、「葉脈標本（スケルトンリーフ）づくり体験講座」が行われ、市内外から21人が参加しました。

スケルトンリーフとは、植物の葉肉を取り、葉脈だけを残した標本で、学習教材やアクセサリーの素材として使用されています。

参加者は、講師の秋山美文さんから葉脈の形や働き、標本の作り方などの説明を受けた後、ヒイラギとエノキの葉を使って標本を作りました。歯ブラシでたたいて葉肉を取り除く工程では、葉脈が破れないように注意しながら慎重に作業をしていました。

参加者は、「スケルトンリーフにすると葉脈の美しさが良く分かる」と話しました。



▲慎重に葉肉を取り除く参加者

中秋に響く歌声と音色

けんみん文化祭ひろしま'24 Music Festival - 合唱・洋楽の祭典 - 10/6

No.1

庄原市民会館で「けんみん文化祭ひろしま'24 Music Festival - 合唱・洋楽の祭典 -」が開催されました。

この大会は、広島県の豊かな自然と伝統に育まれた文化の発掘、継承、育成を図ることを目的に、喜びと感動を分かち合うことのできる県民の祭りとして開催されており、国民文化祭の予選も兼ねています。音楽や舞踊などのジャンルごとに8部門に分かれて県内の各会場で開催されており、第35回大会となる本年は、合唱・洋楽部門が庄原市民会館での開催となりました。

当日は県内各地域から選ばれた合唱10団体、洋楽4団体が演奏を繰り広げ、館内に美しい歌声や豊かな楽器の音色を響かせました。

表彰式で審査結果が発表されると、会場からは歓声上がり、最優秀賞を受賞した団体は大きな喜びを見せていました。

本市からは、合唱の部に東城コールエコーと庄原女性ヴィオレットの2団体が出場し、東城コールエコーが特別賞を受賞しました。

また、アトラクションとして庄原市永江太鼓保存会が和太鼓の演奏を披露し、大会に華を添えました。



▲特別賞を受賞した東城コールエコー



▲庄原女声ヴィオレットのステージ

大学生と小学生の交流

「科学体験&流しそうめん・そば体験」・10/14

No.3

国営備北丘陵公園 里山の駅庄原ふらりで、市と県立広島大学庄原キャンパスの学生有志により「サテライトラボで科学体験&流しそうめん・そば体験」が開催され、小学生22人とその家族が参加しました。

参加者は、同公園内に8月から開設されたサテライトラボで学生の指導の下、顕微鏡で植物などを観察する体験や、竹にレーザー加工でデザインを描く体験をしました。

また、湖畔広場では、4～5メートルに切り出された竹を半分に割って台を作製し、流しそうめんや流しそばを楽しみました。

子どもたちは「流れてくる麺を箸で掴むのが楽しく、そうめんとそばもおいしかった」と話しました。



▲流しそうめんを楽しむ参加者

神楽に触れて親しもう

「みる きく ふれる 比婆荒神神楽」・9/29

No.2

東城文化ホールをメイン会場に、比婆荒神神楽に親しむイベント「みる きく ふれる 比婆荒神神楽」が開催され、約360人が参加しました。

当日は、神楽と紙芝居のコラボ「八重垣の能」や「国譲りの能」、子ども神楽、女神楽などが上演され、国の重要無形民俗文化財に指定されている地域の宝「比婆荒神神楽」に親しむ機会となりました。

また、見るだけでなく、実際に神楽の衣装を身に着けたり、大蛇に入ったり、神楽で使われる「鬼棒」などの手道具を作るワークショップも行われました。

オープニングのサイエンスショーや皿まわしから子どもたちが興味津々となり、最後の大国主の餅まきまで、会場は終始笑顔があふれていました。



▲神楽の衣装を体験する子どもたち



乳がん検診を推進します

第4回ピンクリボン de 上を向いて!・10/6

No.8

10月の「ピンクリボン月間」に合わせて、ピンク色にライトアップされた全国17カ所を中継する「第4回ピンクリボン de 上を向いて!」が開催され、ブレストケア・ピンクリボンキャンペーン in 東城実行委員会が参加しました。

この取り組みは、乳がんの正しい理解や早期発見のための乳がん検診などの大切さを伝えるものです。

実行委員会の近藤久子会長は「東城地域では、自分の命と家族の命を守るために、15年前からピンクリボン活動を行っている。今後もこの活動を続けて、乳がんへの正しい理解や早期発見・早期治療の大切さを伝えていきたい」と話しました。



▲ライトアップと乳がん検診の大切さを呼び掛ける参加者

秋の快速「庄原ライナー」

第25回庄原駅前フェスタ・10/19

No.7

備後庄原駅で、庄原駅周辺地区まちづくり協議会主催の「第25回庄原駅前フェスタ」が開催されました。

これは庄原駅周辺のにぎわいづくりを目的に開催されるもので、当日は秋の快速「庄原ライナー」の運行初日でした。会場では庄原や三次の高校生や地元グループによるスペシャルステージや、アユの塩焼きの出店、健康チェックコーナーなどがあり、多くの人が秋の庄原を楽しんでいました。

また、駅の開札入り口には、総領保育所の子どもたちによる飾りつけが11月末まで展示されています。来場者は「かわいい飾り付けが駅を訪れた人を歓迎しているようだった」と話しました。



▲到着した庄原ライナーを出迎える人々

米の収穫&はで干し体験

総領小学校 体験学習・9/30

No.10

総領小3、4年生の10人が春に田植えをした田んぼで稲刈りを行いました。

子どもたちは、地域の人に「鎌をノコギリの刃のようにギコギコとはせず、まっすぐ引いてください」と教わり、ザクザクと軽快な音とともにしっかりと実った稲を刈り取っていました。

天日干しで日光を浴びた米がよりおいしくなると言われているため、刈り終えた稲は、6株ほどの束にまとめて藁で括り、「はで」と呼ばれる木組みに掛けて干しました。

参加した子どもたちは「鎌の使い方が難しかったけど、慣れたら1回で切り取れるようになった。収穫したお米を食べるのが楽しみ」と話しました。



▲稲刈りに励む子どもたち

西城川のアユが日本一を獲得

清流めぐり利き鮎会でグランプリを獲得・9/20

No.9

全国各地の清流で育ったアユの塩焼きを、味・姿・香り・わた・身の5項目を基準に食べ比べる「第25回清流めぐり利き鮎会」が、高知県高知市で開催され、西城川がグランプリを獲得しました。

これは、おいしいアユを育てた河川の選定を通して、環境保全に関心を持ってもらうことを目的に、平成10年から開催されているものです。利き鮎会には、全国から59河川が参加。審査員280人が、河川名を隠した状態のアユを食べ比べ、審査が行われました。

西城川漁協の津川明文組合長は「西城川のアユが日本一となり河川環境の良さが証明された。これは皆さんの美化活動などのご協力の賜物。引き続き日本一の清流を目指し取り組みを進めたい」と話しました。



▲西城川で育ったアユ